

星川ルネッサンス 星川彫刻プロムナード研究会の構想と展望

構想モデルと取り組み

星川彫刻プロムナード研究

1975年から1985年にかけて星川に設置された彫刻群は日本を代表する芸術家によって製作され、これらの彫刻を線として連結し星川彫刻プロムナードが完成した。彫刻の存在に対する再認識を深めてもらうために解説資料を作成し、星川周辺の店舗等で配布を始めている。

また、国内における北村西望研究の拠点化を目指した上で、戦災慰霊と野外彫刻の歴史研究という観点から、ドイツ・フランクフルト大学社会研究所と共同研究を予定している。これらの研究と啓発を通じて、星川彫刻プロムナードを世界的な文化発信拠点として位置付けられるよう取り組む。



熊谷商工会議所・熊谷青年会議所との連携

：星川周辺の産業立地、店舗数の増加に向けた取り組み。

まちなかモール委員会との連携

：中心市街地活性化に向けた官民連携の取り組み。街なかイベントへの協力。

「星川夜市」など星川発の魅力発信事業

：若手グループなどと連携し星川でのバザールが果たす役割の再認識と情報発信。

「星川とうろう流し」の継承に向けて

：北村西望「戦災者慰霊の女神」の顕彰と、「とうろう流し」の継承に向けた取り組み。

立正大学・地元子供会との連携

：星川を通じての地域おこし行事、星川の生物多様性について学ぶ機会の提供。

新たな文化発信拠点としてのプロムナード構想

：星川を媒介とした長期的プランの策定。彫刻群の見学を目的とした国内外からの来場者促進を進める取り組み。最上流部の星溪園の活用。



星川ルネッサンス

：江戸時代中期から染色業などで栄えた星川は、戦前戦後を通じて多くの人々が行き交う生活拠点であり、商工業の交流拠点でもあった。そうした歴史に想いを馳せながら新たなモデルの確立と発信を目指す。

発起人の概要

増田敏男（元熊谷市長・元厚生労働副大臣・熊谷市名誉市民 1929年（S4）4月20日 91歳）

星川彫刻プロムナード構想の当時、熊谷市長（1982-1986）として銅像の購入設置を進めた。

藤間憲一（熊谷市観光協会会長・熊谷商工会議所名誉会頭 1946年（S21）1月30日 74歳）

北村西望「戦災者慰霊の女神」の顕彰と、熊谷空襲慰霊の「とうろう流し」の運営。

山下祐樹（熊谷市立江南文化財センター 1982年（S57）11月21日 38歳）

北村西望をはじめとする熊谷地域の近現代彫刻の研究。解説資料「星川彫刻プロムナード」作成。

現地彫刻解説会：2020年12月25日（金）午前11時（星川広場集合・筑波）～正午 参加無料（当日受付）
解説者：熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹（問合せ 048-536-5062）